

Cisco UCS C シリーズ サーバ Windows インストレーション ガ イド

初版:2011 年 3 月 22 日 最終更新:2012 年 9 月 11 日

シスコシステムズ合同会社 〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー http://www.cisco.com/jp お問い合わせ先:シスココンタクトセンター 0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む) 電話受付時間:平日 10:00~12:00、13:00~17:00 http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

Text Part Number: 0L-21170-03-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきま しては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更され ている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容 については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販 売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨 事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用 は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡く ださい。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述:この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認 済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、また は放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。 住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述:この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認 済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。本機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射す る可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信障害を引き起こす場合があります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを 保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置 の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 機器と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに機器を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 シスコお よびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証 をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、 間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものと します。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネット ワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意 図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http:// WWW.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2011-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目 次

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

Cisco UCS の関連ドキュメント vii

マニュアルに関するフィードバック vii

インストールのチェックリストと前提条件 1

インストールの概要のチェックリスト 1

インストールの前提条件のチェックリスト 2

インストール ISO イメージのマウント 3

KVM コンソールによるサーバ ブート順の設定 4

Windows Server 2012 の要件 5

C200、C210、および C250 サーバの Windows Server 2012 サポートのイネーブル化 6
C260 および C460 サーバの Windows Server 2012 サポートのイネーブル化 7

Windows Server 2003 のインストール 9

内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール 9

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール 11

Windows Server 2012 および Windows Server 2008 のインストール 15

内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール 15

·ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストー

ル 18

インストール ドライバの情報 21

Windows のインストール ドライバ 21

Windows での Cisco UCS VIC ドライバのアップグレード 22

RAID コントローラに関する考慮事項 23

RAID コントローラ オプション 23



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- 対象読者, v ページ
- 表記法, v ページ
- Cisco UCS の関連ドキュメント, vii ページ
- マニュアルに関するフィードバック, vii ページ

対象読者

このガイドは、次の1つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象 にしています。

- ・サーバ管理
- •ストレージ管理
- ネットワーク管理
- •ネットワークセキュリティ

表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI 要素]のように示しています。
	ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイ ンタイトルは、[メインタイトル]のように示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 (italic) で示しています。

テキストのタイプ	説明
TUI 要素	テキストベースのユーザインターフェイスでは、システムによって表 示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体(bold)で示しています。
	CLI コマンド内の変数は、イタリック体(<i>italic</i>)で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
$\{x \mid y \mid z\}$	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
$[x \mid y \mid z]$	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦 棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。 string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示していま す。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで 示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符(!)またはポンド記号(#)がある場合には、コ メント行であることを示します。

(注)

「注釈」です。 役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

 \mathcal{P} ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。 ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、 ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

Â 注意

「要注意」の意味です。 機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述され ています。

Ō

ワンポイント アドバイス

安全上の重要事項

きます。

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り 扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してくださ い。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器 に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

「時間の節約に役立つ操作」です。 ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮で

これらの注意事項を保存しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメントロードマップ

すべてのBシリーズマニュアルの完全なリストについては、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/ b-series-doc で入手可能な『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

すべての C シリーズマニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/ c-series-doc で入手できる『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

管理用の UCS Manager と統合されたラック サーバでサポートされるファームウェア バージョン とサポートされる UCS Manager バージョンについては、『Release Bundle Contents for Cisco UCS Software』を参照してください。

その他のマニュアル リソース

ドキュメントの更新通知を受け取るには、Cisco UCS Docs on Twitter をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がご ざいましたら、HTMLmailto:ucs-docfeedback@cisco.comドキュメント内のフィードバックフォーム よりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。





インストールのチェックリストと前提条件

この章は、次の項で構成されています。

- ・インストールの概要のチェックリスト,1ページ
- インストールの前提条件のチェックリスト, 2 ページ
- ・ インストール ISO イメージのマウント, 3 ページ
- KVM コンソールによるサーバブート順の設定, 4 ページ
- Windows Server 2012 の要件, 5 ページ

インストールの概要のチェックリスト

Cシリーズラックマウントサーバにオペレーティングシステム (OS) をインストールするには、 次のタスクを完了します。



シスコは C シリーズ ラックマウント サーバ 用に Cisco UCS Server Configuration Utility を開発 しています。このユーティリティを使用すると、一部の Windows および Linux オペレーティ ング システムで自動インストールを実行できます。 このユーティリティは、新しいサーバの CD に付属しています。また、Cisco.com から ISO をダウンロードすることもできます。 この ユーティリティの最新リリースのユーザ マニュアルについては、http://www.cisco.com/en/US/ products/ps10493/products_user_guide_list.html を参照してください。

完了	タスク	その他の情報
	インストールの前提条件のチェッ クリスト, (2 ページ) で説明 されている前提条件を満たしま す。	インストールやライセンスの要件の詳細につい ては、インストールするオペレーティングシス テムのドキュメントを参照してください。

完了	タスク	その他の情報
	KVMコンソール を起動し、イン ストール メディアをマウントし ます。	詳細については、インストールISOイメージの マウント, (3ページ)を参照してください。
	OSの手順の説明に従って、イン ストールを完了します。	詳細については、次のいずれかを参照してくだ さい。
		• 内部ドライブへの Windows Server 2003 の インストール, (9ページ)
		 ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール, (11 ページ)
		 内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール, (15ページ)
		 ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインス トール, (18ページ)

インストールの前提条件のチェックリスト

オペレーティングシステム (OS) のインストールを開始する前に、次のアイテムがあり、次のタ スクを完了していることを確認します。

完了	前提条件
	インストール ターゲット サーバが、インストール先のオペレーティング システ ム (OS) のバージョンをサポートしていることを確認します。
	サポートされるバージョンについては、適切な PDF を参照するか、インタラク ティブな UCS ハードウェアおよびソフトウェア相互運用性ユーティリティ を使 用してください。いずれも、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/web/ techdoc/ucs/interoperability/matrix/matrix.html。
	用に設定したIPアドレスと、管理特権を持つログインアカウントを用意します。
	OS 用のインストール メディア(DVD または ISO イメージ)を用意します。 ア クティベーション キーが必要なソフトウェアの場合、その情報も用意します。
	ヒント ISO イメージを使用するより比較的速いため、DVD ドライブにインストール ディスクを挿入して OS をインストールすることをお勧めします。また、ISO イメージを仮想ディスクとしてマッピングする手順についても示します。

完了	前提条件	
	使用する C シリーズ サーバの種類に応じた Cisco UCS C-Series Drivers DVD また はこの DVD の ISO イメージを用意します。	
	『 <i>Cisco UCS C-Series Drivers DVD</i> 』ISO イメージは、Cisco.com サポート サイトで [Unified Computing and Servers] > [Cisco UCS Rack-Mount Standalone Server Software] > [<i>server_model</i> Server Software] > [Unified Computing System (UCS) Drivers] を選 択して入手できます。	
	利用可能なサーバモデルのリストを参照するには、http://www.cisco.com/cisco/ software/navigator.html?mdfid=283612685&flowid=26802 にアクセスします。	
	 (注) ISO イメージをダウンロードする場合、そのイメージを DVD に書き込むか、サードパーティのユーティリティを使用してラップトップのハードドライブにイメージをマウントします。 	
	インストール時には、この DVD の適切なドライバ イメージ ファイル を、サーバからアクセスできる場所に抽出して、仮想フロッピーとして マウントできるようにする必要があります。	
	サーバに LSI MegaRAID コントローラがある場合、サーバのドライブ用に RAID 設定を構成します。 OS をインストールする前に LSI MegaRAID LUN を設定して いないと、インストール時にディスク検出エラーが発生し、「No Device Found」 といったエラーメッセージが表示される可能性があります。	

インストール ISO イメージのマウント

はじめる前に

インストールの前提条件のチェックリスト, (2ページ)に説明されている前提条件を満たします。

- ステップ1 Web ブラウザで、の Web リンクを入力または選択します。
- **ステップ2** ログイン ウィンドウで、管理者のユーザ名とパスワードを入力します。 デフォルトのユーザ名は admin、パスワードは password です。
- **ステップ3** [Navigation] ペインの [Server] タブの [Remote Presence] をクリックします。
- **ステップ4** (任意) ISO インストール イメージやドライバの IMG ファイルなどの仮想メディアを使用する 場合、次の手順を実行します。
 - a) [Work] ペインの [Virtual Media] タブを開きます。
 - b) [Virtual Media Properties] 領域の [Enabled] チェックボックスがオフの場合はオンにします。

c) 設定を変更した場合は [Save Changes] をクリックします。

- **ステップ5** [Work] ペインの [Virtual KVM] タブを開きます。
- **ステップ6** [vKVM Properties] 領域の [Enabled] チェックボックスがオフの場合はオンにして、[Save Changes] をクリックします。
- **ステップ7** [Actions] 領域の [Launch KVM Console] をクリックします。 から別ウィンドウに **KVM コンソール**が開きます。
- **ステップ8** 仮想メディアへのアクセス方法は、使用している KVM コンソールのバージョンによって異なり ます。 仮想メディアにアクセスするには、次のいずれかを実行します。
 - [Virtual Media] タブをクリックします。
 - [VM] タブをクリックします。
 - [Tools] > [Virtual Media] を選択します。
- **ステップ9** [Add Image] をクリックし、インストール ISO イメージを含むディレクトリに移動します。
- ステップ10 ISO イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。
- ステップ11 [Client View] 領域で、ISO ファイルに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオン にし、マッピングが完了するまで待ちます。
 - **ヒント** [Details] をクリックしてマッピングの進行状況を表示します。

次の作業

インストールする OS に対応するインストール手順を参照して OS をインストールします。

KVM コンソールによるサーバ ブート順の設定



(注) または を使用してブート順を設定する場合、使用している のバージョンの GUI または CLI の『Cisco Integrated Management Controller Configuration Guide』を参照してください。 コンフィ ギュレーションガイドは次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps10739/ products_installation_and_configuration_guides_list.html

- ステップ1 KVM コンソールが開いていない場合は起動します。
- **ステップ2** サーバをリブートします。
- **ステップ3 KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始す るメッセージが表示されたら、F2 を押します。

- (注) F2を押すと、サーバでデバイスの初期化が継続されているため、短い待機時間の後に BIOSセットアップユーティリティが表示されます。ユーティリティは、初期化の完了 後に表示されます。
- ステップ4 BIOS セットアップ ユーティリティ画面で、[Boot Options] タブをクリックします。
- **ステップ5** システムの設定方法に基づいて、次の手順を実行します。

インストール タイプ	説明
単一ハード ドライブ システム への内部インストール	 Boot Option #1] を選択して Enter を押します。 ポップアップ メニューで、インストール ターゲット ドライ ブを選択し、Enter を押します。
複数ハード ドライブ システム への内部インストール	 [Boot Options] タブの [Hard Disk Order] を選択し、Enter を押 します。 [Hard Disk Order] タブの [Boot Option #1] を選択し、Enter を押 します
	3 ポップアップメニューで、インストールターゲット ドライ ブを選択し、Enter を押します。
	4 Esc を押して、メインの [Boot Options] タブに戻ります。
ブート可能 SAN LUN へのイン ストール	1 [Boot Options] タブの [Hard Disk Order] を選択し、Enter を押 します。
	2 [Hard Disk Order] タブの [Boot Option #1] を選択し、Enter を押 します。
	3 ポップアップメニューで、インストールターゲット SAN LUN を選択し、Enter を押します。
	4 Esc を押して、メインの [Boot Options] タブに戻ります。

ステップ6 F10 キーを押して、変更を保存しサーバをリブートします。

Windows Server 2012 の要件

特定の Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバでの Windows Server 2012 サポートをイネー ブルにするには、BIOS 設定を更新する必要があります。

Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバ	BIOS 変更が必要
・C200 M1 サーバ	C200、C210、および C250 サーバの Windows
・C210 M1 サーバ	Server 2012 サポートのイネーブル化, (6ペー
・C250 M1 サーバ	ジ)を参照してください。
・C260 M2 サーバ	C260 および C460 サーバの Windows Server 2012
・C460 M1 サーバ	サポートのイネーブル化, (7 ページ)を参照
・C460 M2 サーバ	してください。

C200、C210、および **C250** サーバの Windows Server 2012 サポートのイ ネーブル化

この手順では、Windows Server 2012 のサポートをイネーブルにする方法について説明します。

- ステップ1 KVM コンソールが開いていない場合は起動します。
- **ステップ2** サーバをリブートします。
- **ステップ3 KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始す るメッセージが表示されたら、F2 を押します。
 - (注) F2を押すと、サーバでデバイスの初期化が継続されているため、短い待機時間の後に BIOSセットアップユーティリティが表示されます。ユーティリティは、初期化の完了 後に表示されます。
- ステップ4 BIOS Setup ユーティリティの画面で、[Advanced] タブをクリックします。
- **ステップ5** [PCI Configuration] を選択し、Enter を押します。
- **ステップ6** [PCI Configuration] タブで、[SR-IOV] を選択し、Enter を押します。
- ステップ7 ポップアップメニューで、[Enabled]を選択し、Enterを押します。
- ステップ8 F10 キーを押して、変更を保存しサーバをリブートします。

C260 および C460 サーバの Windows Server 2012 サポートのイネーブル 化

この手順では、Windows Server 2012 のサポートをイネーブルにする方法について説明します。

- ステップ1 KVM コンソールが開いていない場合は起動します。
- **ステップ2** サーバをリブートします。
- **ステップ3 KVM コンソール**の [KVM] タブで、ブート メッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始す るメッセージが表示されたら、F2 を押します。
 - (注) F2を押すと、サーバでデバイスの初期化が継続されているため、短い待機時間の後に BIOSセットアップユーティリティが表示されます。ユーティリティは、初期化の完了 後に表示されます。
- ステップ4 BIOS Setup ユーティリティの画面で、[Advanced] タブをクリックします。
- **ステップ5** [PCI Configuration] を選択し、Enter を押します。
- **ステップ6** [PCI Configuration] タブで、[SR-IOV] を選択し、Enter を押します。
- ステップ7 ポップアップメニューで、[Enabled] を選択し、Enter を押します。
- ステップ8 Escape 押して、[Advanced] タブに戻ります。
- **ステップ9** [ACPI Configuration] を選択し、Enter を押します。
- ステップ10 [ACPI Configuration] タブで、[ACPI_OSC Enable] を選択し、Enter を押します。
- ステップ11 ポップアップメニューで、[Enabled]を選択し、Enterを押します。
- ステップ12 F10 キーを押して、変更を保存しサーバをリブートします。



Windows Server 2003 のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- 内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール, 9 ページ
- ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール, 11 ページ

内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール

ここでは、 と **KVM コンソール**を使用して、内部ドライブに Windows Server 2003 Service Pack 2 (SP2) x86 または x64 をインストールする方法について説明します。

その他のバージョンの Windows Server 2003 はサポートされていません。



シスコは C シリーズ ラックマウント サーバ 用に Cisco UCS Server Configuration Utility を開発 しています。このユーティリティを使用すると、一部の Windows および Linux オペレーティ ング システムで自動インストールを実行できます。 このユーティリティは、新しいサーバの CD に付属しています。また、Cisco.com から ISO をダウンロードすることもできます。 この ユーティリティの最新リリースのユーザ マニュアルについては、http://www.cisco.com/en/US/ products/ps10493/products_user_guide_list.html を参照してください。

はじめる前に

インストールの前提条件のチェックリスト, (2ページ)に説明されている前提条件を満たします。

手順

ステップ1 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS C-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

- ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。デバイスが初期化されると、ブートプロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。詳細については、インストールドライバの情報,(21ページ)を参照してください。
- ステップ2 仮想メディアからOSまたはドライバをインストールする場合、KVMコンソールを起動し、イン ストール ISO イメージのマウント, (3ページ)の説明に従ってメディアをマウントします。
- **ステップ3** 次の手順で、マスストレージコントローラまたは SAN HBA デバイス用のドライバ IMG ファイ ルをマウントします。
 - a) [Add Image] をクリックし、デバイスとオペレーティング システムのドライバ IMG イメージ ファイルが含まれるディレクトリに移動します。
 - b) IMG イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。
 - c) デバイスをフロッピーとしてエミュレートするかどうかを確認するメッセージが表示された ら、[Yes] をクリックします。
 - d) [Client View] 領域で、IMG 仮想フロッピーに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボッ クスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。
- ステップ4 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。
 - •KVM コンソールで、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
 - で、[Navigation] ペインの [Summary] をクリックし、[Server Summary] タブの [Actions] 領域の [Power Cycle Server] をクリックします。
 - •物理サーバの電源ボタンを押します。
- ステップ5 (任意) OS をインストールした後にサーバが使用するブート順を設定するには、ブートメッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始するメッセージが表示されたら、F2 を押し、ブート順を設定します。
 詳細については、KVM コンソールによるサーバブート順の設定、(4 ページ)を参照してください。
- **ステップ6** 通常のブート順を上書きし、インストールメディアからブートするには、**KVM コンソール**で、 ブートメッセージを確認し、[Boot Menu]を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。
- ステップ7 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。
 - ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
 - 物理インストールディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスクドラ イブを選択し、Enterを押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが 開始されます。

- ステップ8 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 インストール プロセスの初期にウィンドウの下部に表示される [Press F6 to install third-party drivers] というメッ セージに注意します。
- **ステップ9** 仮想フロッピーからマス ストレージ コントローラまたは HBA デバイスのドライバをインストー ルします。
 - a) サードパーティのドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されたら、F6 を押します。追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されるまで、インストー ルプロセスを確認します。
 - b)追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されたら、Sを押します。
 - c) リストからデバイスを選択して Enter を押します。 仮想フロッピーからドライバがインストールされます。
- ステップ10 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
 Windowsのインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Delを押し、ログインしてWindowsデスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。Windowsインストールプロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。
 - (注) この時点では、サーバチップセットやイーサネットコントローラなどのデバイス用の デバイスドライバがまだインストールされていません。Windows Device Manager で、 ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。
- ステップ11 Windows File Manager を使用して、手順1で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。 ドライバDVDフォルダ構造の詳細については、Windowsのインストールドライバ, (21ページ) を参照してください。
 - **ヒント** Windows Server 2008 R2 の使用時にパフォーマンスが低下する場合は、オンボード Intel 82576 NIC 用の最新ドライバを、Intel のサイト http://downloadcenter.intel.com から直接入 手してください。
- ステップ12 Windows Device Manager を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認します。 黄色のフラグが付いているフラグがあれば、Device Manager を使用してドライバを手動でインストールします。

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインス トール

ここでは、CIMC GUI と **KVM コンソール**を使用して、ブート可能 SAN LUN に Windows Server 2003 Service Pack 2(SP2)x86 または x64 をインストールする方法について説明します。

<u>(注)</u>

シスコは C シリーズ ラックマウント サーバ 用に Cisco UCS Server Configuration Utility を開発 しています。このユーティリティを使用すると、一部の Windows および Linux オペレーティ ング システムで自動インストールを実行できます。 このユーティリティは、新しいサーバの CD に付属しています。また、Cisco.com から ISO をダウンロードすることもできます。 この ユーティリティの最新リリースのユーザ マニュアルについては、http://www.cisco.com/en/US/ products/ps10493/products user guide list.html を参照してください。

はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリスト, (2ページ)に説明されている前提条件を満たします。
- •SAN でLUN または RAID ボリュームを構成し、SAN に接続して SAN HBA から LUN へのパスが1つ(1つのみ)存在していることを確認します。

RAID コントローラを使用している場合、詳細についてはRAID コントローラに関する考慮事 項, (23 ページ)を参照してください。

- **ステップ1** 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS C-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。
 - ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。デバイスが初期化されると、ブートプロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。詳細については、インストールドライバの情報, (21ページ)を参照してください。
- ステップ2 仮想メディアからOSまたはドライバをインストールする場合、KVMコンソールを起動し、イン ストール ISO イメージのマウント, (3ページ)の説明に従ってメディアをマウントします。
- **ステップ3** 次の手順で、マス ストレージ コントローラまたは SAN HBA デバイス用のドライバ IMG ファイ ルをマウントします。
 - a) [Add Image] をクリックし、デバイスとオペレーティング システムのドライバ IMG イメージ ファイルが含まれるディレクトリに移動します。
 - b) IMG イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。
 - c) デバイスをフロッピーとしてエミュレートするかどうかを確認するメッセージが表示された ら、[Yes] をクリックします。
 - d) [Client View] 領域で、IMG 仮想フロッピーに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボッ クスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。
- **ステップ4** 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。
 - ・KVM コンソールで、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
 - で、[Navigation] ペインの [Summary] をクリックし、[Server Summary] タブの [Actions] 領域の [Power Cycle Server] をクリックします。

•物理サーバの電源ボタンを押します。

- ステップ5 (任意) OS をインストールした後にサーバが使用するブート順を設定するには、ブートメッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始するメッセージが表示されたら、F2 を押し、ブート順を設定します。
 詳細については、KVM コンソールによるサーバブート順の設定, (4ページ)を参照してください。
- **ステップ6** 通常のブート順を上書きし、インストールメディアからブートするには、**KVM コンソール**で、 ブートメッセージを確認し、[Boot Menu]を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。
- ステップ7 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。
 - ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
 - •物理インストールディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスクドラ イブを選択し、Enterを押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが 開始されます。

- ステップ8 CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 インストール プロセスの初期にウィンドウの下部に表示される [Press F6 to install third-party drivers] というメッ セージに注意します。
- **ステップ9** 仮想フロッピーからマス ストレージ コントローラまたは HBA デバイスのドライバをインストー ルします。
 - a) サードパーティのドライバをインストールするように求めるメッセージが表示されたら、F6 を押します。追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されるまで、インストー ルプロセスを確認します。
 - b) 追加デバイスを指定するように求めるメッセージが表示されたら、Sを押します。
 - c) リストからデバイスを選択して Enter を押します。 仮想フロッピーからドライバがインストールされます。
- ステップ10 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
 Windowsのインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Delを押し、ログインしてWindowsデスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。Windowsインストールプロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。
 - (注) この時点では、サーバチップセットやイーサネットコントローラなどのデバイス用の デバイスドライバがまだインストールされていません。Windows Device Manager で、 ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。
- ステップ11 Windows File Manager を使用して、手順1 で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。 ドライバDVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストールドライバ, (21ページ) を参照してください。

- **ヒント** Windows Server 2008 R2 の使用時にパフォーマンスが低下する場合は、オンボード Intel 82576 NIC 用の最新ドライバを、Intel のサイト http://downloadcenter.intel.com から直接入 手してください。
- **ステップ12** Windows Device Manager を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認しま す。黄色のフラグが付いているフラグがあれば、Device Manager を使用してドライバを手動でイ ンストールします。



Windows Server 2012 および Windows Server 2008 のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- 内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール, 15 ページ
- ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール, 18 ページ

内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール

ここでは、と**KVMコンソール**を使用して、内部ドライブに Windows Server 2012、Windows Server 2008 x64、または Windows Server 2008 R2 x64 と必要なドライバをインストールする方法について 説明します。



シスコは C シリーズ ラックマウント サーバ 用に Cisco UCS Server Configuration Utility を開発 しています。このユーティリティを使用すると、一部の Windows および Linux オペレーティ ング システムで自動インストールを実行できます。 このユーティリティは、新しいサーバの CD に付属しています。また、Cisco.com から ISO をダウンロードすることもできます。 この ユーティリティの最新リリースのユーザ マニュアルについては、http://www.cisco.com/en/US/ products/ps10493/products user guide list.html を参照してください。

はじめる前に

インストールの前提条件のチェックリスト, (2ページ)に説明されている前提条件を満たします。



重要 Cisco UCS C200 または C210 ラックマウント サーバと Intel Quad ポート GbE HBA アダプタが ある場合、取り外してから、サーバに Windows 2012 または Windows 2008 R2 をインストール する必要があります。後で取り付け直すこともできますが、Windows のインストール時にア ダプタがあると、予期しないエラーが発生してインストールが失敗します。

手順

ステップ1 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS C-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。

- **ヒント** 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認しま す。デバイスが初期化されると、ブートプロセスでそのデバイスに関する情報が表示 されます。詳細については、インストールドライバの情報, (21ページ)を参照して ください。
- ステップ2 仮想メディアからOSまたはドライバをインストールする場合、KVMコンソールを起動し、イン ストール ISO イメージのマウント、(3ページ)の説明に従ってメディアをマウントします。
- **ステップ3** 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。
 - •KVM コンソールで、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
 - で、[Navigation] ペインの [Summary] をクリックし、[Server Summary] タブの [Actions] 領域の [Power Cycle Server] をクリックします。
 - •物理サーバの電源ボタンを押します。
- ステップ4 (任意) OS をインストールした後にサーバが使用するブート順を設定するには、ブートメッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始するメッセージが表示されたら、F2 を押し、ブート順を設定します。
 詳細については、KVM コンソールによるサーバブート順の設定, (4 ページ) を参照してください。
- **ステップ5** 通常のブート順を上書きし、インストールメディアからブートするには、KVM コンソールで、 ブートメッセージを確認し、[Boot Menu]を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。
- ステップ6 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。
 - ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
 - •物理インストールディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスクドラ イブを選択し、Enterを押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが 開始されます。

- **ステップ7** CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 会社の要件と 標準に従ってインストールに関する質問に答え、[Where do you want to install Windows?] 画面が表 示されたら、次の手順に進みます。
- ステップ8 [Where do you want to install Windows?] 画面が表示されたら、Cisco ドライバの ISO イメージをマウ ントし、基本のドライバをインストールしてから Windows をインストールできるようにします。 次の手順を実行します。
 - a) KVM コンソールの [VM] タブまたは [Virtual Media Session] ダイアログボックスに戻ります。
 - b) 同時にマッピングできる仮想 CD/DVD は1つのみなので、既存の仮想 CD/DVD 接続がある場合は、その接続に関連するチェックボックスをオフにしてマッピングを解除します。
 ヒント 新しい接続を作成できることを確認するには、[Details] テーブルを参照します。
 - 初の行を見ると、[Virtual CD/DVD] がマッピングされていないことがわかります。
 - c) [Add Image]をクリックし、マスストレージまたはHBAデバイスのシスコドライバISOイメージを含むディレクトリに移動します。
 - d) ISO イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。
 - e) [Client View] 領域で、ISO ファイルに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。
 - f) [KVM] タブの Windows インストール メッセージに戻ります。
- **ステップ9** ドライバをインストールします。
 - a) [Where do you want to install Windows?] 画面で、表の下の [Load Driver] リンクをクリックしま す。
 - b) [Load Driver] ダイアログボックスの [Browse] をクリックします。
 - c) マッピングした仮想 DVD デバイスの適切なフォルダに移動し、インストールするドライバを 選択します。
 - d) [OK] をクリックします。 ドライバのロードが完了したら、[Select the driver to install] ダイアログボックスが開き、新しい ドライバが表示されます。
 - e) お使いのデバイス用のドライバを選択し、[Next] をクリックします。 Windows のステータス バーを確認し、ドライバのインストールが完了するまで待ちます。
- **ステップ10** (任意) ISO イメージ ファイルから Windows をインストールしている場合、ドライバの ISO イ メージのマッピングを解除し、Windows のインストール イメージをマッピングし直します。
 - a) KVM コンソールの [VM] タブまたは [Virtual Media Session] ダイアログボックスに戻ります。
 - b) [Client View] 領域で、ドライバの ISO ファイルに対応する [Mapped] 列のチェックボックスを オフにします。
 - c) Windows インストール イメージに対応する [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッ ピングが完了するまで待ちます。
 - d) [KVM] タブの Windows インストール メッセージに戻ります。

- e) (任意) インストール手順に、インストールディスクが見つからないため続行できないとい うエラーが表示される場合、画面の下部にある[Refresh]をクリックし、インストール手順のイ ンストール ISO イメージとの接続を更新します。
- **ステップ11** [Where do you want to install Windows?] 画面で、Windows をインストールするディスクまたはパー ティションを選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ12 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。
 Windowsのインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Delを押し、ログインしてWindowsデスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。Windowsインストールプロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。
 - (注) この時点では、サーバチップセットやイーサネットコントローラなどのデバイス用の デバイスドライバがまだインストールされていません。Windows Device Manager で、 ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。
- ステップ13 Windows File Manager を使用して、手順1で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。 ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストールドライバ, (21ページ) を参照してください。
 - **ヒント** Windows Server 2008 R2 の使用時にパフォーマンスが低下する場合は、オンボード Intel 82576 NIC 用の最新ドライバを、Intel のサイト http://downloadcenter.intel.com から直接入 手してください。
- ステップ14 Windows Device Manager を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認しま す。 黄色のフラグが付いているフラグがあれば、Device Manager を使用してドライバを手動でイ ンストールします。

ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール

ここでは、CIMC GUI および **KVM コンソール**を使用して、ブート可能 SAN LUN に Windows Server 2012、Windows Server 2008 x64、または Windows Server 2008 R2 x64 と必要なドライバをインストールする方法について説明します。

(注)

シスコはCシリーズラックマウントサーバ用に Cisco UCS Server Configuration Utility を開発 しています。このユーティリティを使用すると、一部の Windows および Linux オペレーティ ング システムで自動インストールを実行できます。 このユーティリティは、新しいサーバの CD に付属しています。また、Cisco.com から ISO をダウンロードすることもできます。 この ユーティリティの最新リリースのユーザ マニュアルについては、http://www.cisco.com/en/US/ products/ps10493/products user guide list.html を参照してください。 はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリスト, (2ページ)に説明されている前提条件を満た します。
- SAN でLUN または RAID ボリュームを構成し、SAN に接続して SAN HBA から LUN へのパ スが1つ(1つのみ)存在していることを確認します。

RAIDコントローラを使用している場合、詳細についてはRAIDコントローラに関する考慮事 項,(23ページ)を参照してください。



重要 Cisco UCS C200 または C210 ラックマウント サーバと Intel Quad ポート GbE HBA アダプタが ある場合、取り外してから、サーバに Windows 2012 または Windows 2008 R2 をインストール する必要があります。 後で取り付け直すこともできますが、Windows のインストール時にア ダプタがあると、予期しないエラーが発生してインストールが失敗します。

- **ステップ1** 実際に取り付けているデバイスのドライバは、*Cisco UCS C-Series Drivers DVD* または DVD の ISO ファイルから探し、サーバからアクセスできる場所に抽出します。
 - ヒント 必要なドライバがわからない場合は、サーバをリブートし、出力メッセージを確認します。デバイスが初期化されると、ブートプロセスでそのデバイスに関する情報が表示されます。詳細については、インストールドライバの情報,(21ページ)を参照してください。
- **ステップ2** 仮想メディアからOSまたはドライバをインストールする場合、KVMコンソールを起動し、イン ストール ISO イメージのマウント, (3ページ)の説明に従ってメディアをマウントします。
- **ステップ3** 次のいずれかの方法で、サーバの電源を再投入します。
 - •KVM コンソールで、[Macros] > Ctrl+Alt+Del を選択します。
 - で、[Navigation] ペインの [Summary] をクリックし、[Server Summary] タブの [Actions] 領域の [Power Cycle Server] をクリックします。
 - •物理サーバの電源ボタンを押します。
- ステップ4 (任意) OS をインストールした後にサーバが使用するブート順を設定するには、ブートメッセージを確認し、BIOS のセットアップを開始するメッセージが表示されたら、F2 を押し、ブート順を設定します。
 詳細については、KVM コンソールによるサーバブート順の設定, (4 ページ) を参照してください。
- **ステップ5** 通常のブート順を上書きし、インストールメディアからブートするには、**KVM コンソール**で、 ブートメッセージを確認し、[Boot Menu]を開くメッセージが表示されたら、F6 を押します。
- ステップ6 [Boot Menu] 画面で、次のいずれかを実行します。

- ISO イメージを使用する場合、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。
- •物理インストールディスクを使用する場合、そのディスクが挿入されているディスクドラ イブを選択し、Enterを押します。

選択したデバイスからサーバがリブートし、イメージまたはディスクから OS のインストールが 開始されます。

- **ステップ7** CD からブートすることを確認するメッセージが表示されたら、Enter を押します。 会社の要件と 標準に従ってインストールに関する質問に答え、[Where do you want to install Windows?] 画面が表 示されたら、次の手順に進みます。
- ステップ8 自社の要件と標準に従い、インストールの進行状況を監視し、必要に応じてメッセージに応答してインストールを完了します。 Windowsのインストールが完了すると、サーバが再びリブートします。続いて、Ctrl+Alt+Delを 押し、ログインして Windows デスクトップにアクセスするよう求めるメッセージが表示されます。Windows インストール プロセス中に指定したログイン資格情報を使用します。
 - (注) この時点では、サーバチップセットやイーサネットコントローラなどのデバイス用の デバイスドライバがまだインストールされていません。Windows Device Managerで、 ドライバが必要なデバイスは黄色のフラグ付きで表示されます。
- ステップ9 Windows File Manager を使用して、手順1で Cisco ドライバを抽出したフォルダに移動します。 ドライバ DVD フォルダ構造の詳細については、Windows のインストールドライバ, (21ページ) を参照してください。
 - **ヒント** Windows Server 2008 R2 の使用時にパフォーマンスが低下する場合は、オンボード Intel 82576 NIC 用の最新ドライバを、Intel のサイト http://downloadcenter.intel.com から直接入 手してください。
- **ステップ10** Windows Device Manager を起動し、まだ黄色のフラグが付いているデバイスがないか確認しま す。黄色のフラグが付いているフラグがあれば、Device Manager を使用してドライバを手動でイ ンストールします。



インストール ドライバの情報

この付録は、次の項で構成されています。

- Windows のインストール ドライバ, 21 ページ
- Windows での Cisco UCS VIC ドライバのアップグレード, 22 ページ

Windows のインストール ドライバ

必要なインストール ドライバとドライバの詳細情報は、Cisco UCS C-Series Drivers DVD で入手できます。



(注)

『*Cisco UCS C-Series Drivers DVD*』ISO イメージは、Cisco.com サポート サイトで [Unified Computing and Servers]>[Cisco UCS Rack-Mount Standalone Server Software]>[*server_model* Server Software]>[Unified Computing System (UCS) Drivers] を選択して入手できます。

利用可能なサーバモデルのリストを参照するには、http://www.cisco.com/cisco/software/ navigator.html?mdfid=283612685&flowid=26802 にアクセスします。

ドライバは、オペレーティングシステム別にトップレベルのフォルダに整理されています。また、必要なドライバを見つけやすいように、各オペレーティングシステムフォルダは、階層が深くなるほど詳細な分類になるように複数階層のサブフォルダで構成されています。ドライバが含まれるフォルダに移動すると、そのドライバの使用対象について説明した1つまたは複数のREADMEファイルもあります。

Windows のフォルダ構造の例を次に示します。

```
Windows
ChipSet
vendor
blade-model-number
OS-version-number
All
ia64
Lang (contains language subfolders)
Vista
x64
```

```
Mgmt
   Emulex
      model-number
        ElxPlus
            OS-version-number
               x64
Network
   vendor
     model-number
         OS-version-number
            x64
Security
   TPM
      OS-version-number
            x64
Storage
   vendor
      model-number
         OS-version-number
            x64
Video
   Matrox
      G200e
         OS-version-number
            x64
```

たとえば、Cisco UCS M81KR 仮想インターフェイス カード用の Windows Server 2008 Release 2 ド ライバについては、Windows/Network/Cisco/M81KR/W2K8R2/x64 フォルダを参照してくだ さい。

Windows での Cisco UCS VIC ドライバのアップグレード

Cisco VIO インストーラ (CSCO_VIO_INSTALLER_64_2.3.18.msi) を使用すれば、Windows のバー ジョンに関係なく Cisco UCS VIC ドライバをアップグレードすることができます。 Cisco VIO イ ンストーラは、Cisco UCS ドライバ ISO バンドルに含まれます。



RAID コントローラに関する考慮事項

この付録は、次の項で構成されています。

• RAID コントローラ オプション, 23 ページ

RAID コントローラ オプション

各 Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバでサポートされている RAID コントローラの詳細 については、各プラットフォームのインストレーションおよびサービス ガイドの付録「RAID Controller Considerations」を参照してください。ご使用のプラットフォームのそのガイドは、次の URL にある「『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』」内にリンクがあります。

http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/UCS_rack_roadmap.html コントローラとそのユーティリティの使用方法の詳細については、『Cisco UCS Servers RAID Guide』を参照してください。